



インド

43 コタグダムA火力発電所 近代化事業

A

B

C

D

コタグダムA発電所のボイラー、タービン、および発電機のリハビリを実施することにより、アンドラ・プラデシュ州の電力不足の改善を図り、もって同州の経済発展に寄与する。

承諾額/実行額 50億9,200万円／50億8,400万円
借款契約調印 1995年2月
借款契約条件 金利2.6%、返済30年（うち据置10年）、一般アンタイド
貸付完了 2002年4月



外部評価者 笹尾隆二郎（アイ・シー・ネット株式会社）
現地調査 2003年7月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りにボイラー、タービンおよび発電機のリハビリが実施され、期間および事業費もほぼ計画通りであった。本事業対象発電所では、年間1,844GWhの電力を供給しており、インドの1人あたり消費量を基にすれば約500万人に電力供給を行っている。また、熱効率の計画値は32.5%と設定しているが、リハビリ前の25.7%から、リハビリ後の2002年度には30.1%に上昇した。これは、日本の電力会社と比べても遜色ないレベルである。設備利用率は、02年度には計画値である65%を大幅に超え、87%にまで達している。一般的に、電力インフラの改善は産業発展に結びつくといわれており、事業対象地のアンドラ・プラデシュ（AP）州における1998年度から01年度までのGRDP（域内総生産）の伸びも年平均約6.7%と、全国平均の約5.7%を超える数

値を示している。実施機関であるAP州発電公社（APGENCO）は、石炭灰処理場の確保とともに、農業省や地元の大学と共同で石炭灰の肥料としての再利用法に関する研究を行う等、環境配慮に努めており、技術および体制面は問題なく、財務面は良好である。

第三者意見

本事業は、電力セクター改革を推進しているAP州において、火力発電所近代化（リハビリ）の模範となり得るものである。

有識者 Mr. Sankaran Kartha Narayanan Nair

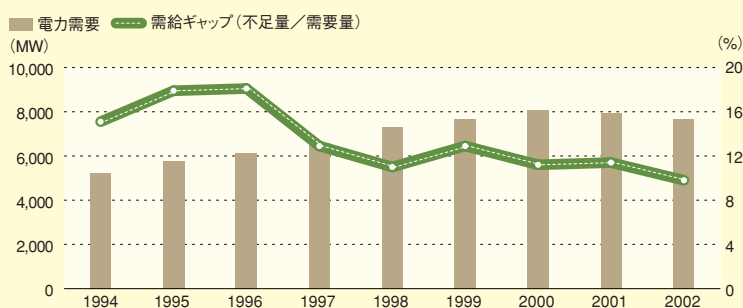
マドラス大学修士課程修了（文学）。現在国立応用経済研究評議会顧問。専門はインフラ整備政策、電力、運輸（鉄道）、通信など。

コタグダムA火力発電所



リハビリにより機能を回復した発電所。2002年度には熱効率が約30%にまで上昇した。

AP州における電力需要と需給ギャップ



出所: AP州送電公社（APTRANSCO）

需給ギャップは本事業実施前（1996年度）の18.1%から2002年度には9.8%へと半減している。